

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395700111		
法人名	医療法人あやめ会		
事業所名	グループホーム かえで		
所在地	愛知県知多郡東浦町大字石浜字笹原28番地1		
自己評価作成日	令和 3年 1月 5日	評価結果市町村受理日	令和 3年 4月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyosyoCd=2395700111-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 3年 1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型施設として、利用者様が住み慣れた町で生きがいを持ち楽しく過ごしていけるように。またご家族様が安心して預けることができる施設を目指しています。今年度はコロナ禍により、地域イベントへの参加、地域との交流の機会を設けることができませんでした。それでも感染対策に配慮し、ご家族様も参加された「秋まつり」の開催、利用者様中心のバーベキューパーティーを開催して楽しんでいただきました。
また、法人母体のクリニックが徒歩圏内にあり、素早い医療提供が可能で、隔週の定期往診、看護師の配置等医療面でも安心してしていただける施設となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体のクリニックを中心に、地域と共に歩みながらホームの運営を行っている。現在は、コロナ禍で、大切にしていた地域交流が思うようにできない状況であるため、感染症対策をしながら、利用者の充実した生活を支えるための支援、利用者が主体となり、職員も一緒に楽しめる取り組みを模索している。コロナ禍以前は、大型レジャー施設やテーマパークなどに小旅行に出かけたり、地域の盆踊りに参加したりと様々なイベントを企画していた。現在は外出自粛を余儀なくされ、室内や敷地内でのレクリエーション活動に力を入れている。
運営面では、職員はホーム内の委員会に所属し、働きやすい職場・働き続けたいと思える職場づくり、業務改善に積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員ボードに掲示し、毎日職員の目につくよう配慮。会議や委員会等の開催に際し、必ず一度は意識するように心がけ、理念の浸透を図っています。	出勤時に職員ボードで理念と行動指針を確認している。今年は、これまでとは違う形で理念に関する研修を行い、職員のやる気と自立に繋がるきっかけとなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度、地域交流祭を開催し、地域の方々と交流の場を設けた。今年度は、コロナ禍を考慮し、中止とした。代わりとして、利用者様ご家族様も招待した秋まつりを感染対策を施したうえ、開催しました。	コロナ禍で、地域行事が中止となり、地域住民との関わりを持つ機会が減っているが、区長から情報提供をしてもらえる関係は続いている。ホーム秋まつりの開催は対象者を限定し、感染予防策を講じて継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所紹介、認知症勉強会等を地域住民を対象に計画したが、コロナ禍を考慮し、中止しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加されている各代表の意見を聞き、運営やサービス提供に生かしていますが、新型コロナウイルス感染症対策のため、後半は意見照会となりました。	現在は書面開催をしており、ホームの状況報告等の資料を配布し、意見を募っている。その回答を次回の報告書に載せ、配布・周知している。地域包括支援センターや区長からは貴重な意見が出され、真摯に受け止めて対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特別な問題が発生しないかぎり、連絡は取り合っておりません。所属する法人としては、様々なことで連絡を取っています。	法人全体で行政との連携があり、ホームとして単独で連絡を取ることは少ない。コロナ禍以前は、地域包括支援センターが運営推進会議に出席しており、適宜情報交換し、連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設け、定期的に状況の確認、把握。全職員への周知、徹底を行っています。	ホーム内で身体拘束をテーマとした研修や勉強会を行っている。適切な言葉を知らないことで起こる拘束もあるため、利用者との信頼関係を築くための言葉遣いの難しさを考える機会も設けている。現在、安全確保を含む、身体拘束の対象となる利用者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	委員会活動の中で虐待防止をテーマにあげ、学ぶ機会を持つことはもとより、施設内で虐待が起きないように、職員各々が注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでいるが、職員への周知や学ぶ機会の確保は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容について、理解・納得が得られないことがないように、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やそのご家族様からの意見、要望は、いつでも聞かせていただく体制となっており、いただいた意見は、全体会議等で検討し、必要と判断されれば、運営に反映しています。	面会の際や電話で意見を聞くことが多いため、何かあれば気軽に話してもらえるような雰囲気作りをしている。コロナ禍の中でも利用者と家族の関係を大切にしたいと、秋まつりに招待して、交流の機会を設けた。	利用者の日常の様子を詳細に伝えることで、意見要望も出しやすくなるであろう。家族にホームの取り組みを理解してもらう機会を設けることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	QC活動を行い、提案された意見を担当者会議等で検討し、改善につながる意見、提案は実践し運営に反映させています。	様々な委員会活動を行い、職員が率先して業務改善に取り組んでいる。会議や委員会等で出された意見は管理者や主任が精査し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務表の事前チェック、委員会議事録、実績状況の確認等を通じて、職員のやる気や勤務状況が把握できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	担当者により、最新の社外研修情報を毎月掲示して、職員の受講を促している。 法人内の研修は、すすんでいません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時間的な制約もあり、他事業者との交流の機会は設けられていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様、担当ケアマネジャーから事前に情報を得て、またご本人様のお話をしっかり聞いて、安心感をもって入居いただけるよう配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階で、十分な説明を行い、その際に家族様等からの疑問、不安、要望を聞いて、可能なことはその場で対応するなど、初期の段階から関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様との面談を通じて、またこれまで行われてきたケアプランより必要な支援を考え、本施設でなにごできるかを考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることは、できるだけ本人に行っていたき、出来ないことに関して支援をし、共に生活していることが実感できる環境作りに心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様も参加できる施設行事の開催、理髪希望や通院等の連絡を通じて、いわゆる預けっぱなしの関係ではなく、共に支えていく環境づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	契約時にこれまでの生活歴を聞き取り、入居後もこれまでと変わらない生活習慣が可能な限り継続できるよう、ご家族様等に協力を依頼している。	コロナ禍で、面会・外出を自粛している。知人に会えない状況があるが、その方との思い出話を職員が聞き、状況が改善したときにスムーズに関係が継続できるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護計画により、利用者様一人ひとりの状況を把握したうえで、それぞれの個性を大切にしながら、皆さまが孤立せず、仲良く関わり合えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特別な要件がある場合を除いて、事業所からの連絡はしていませんが、求められることがあった場合は、安心、納得していただけるよう支援を行います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時の情報、ケアプラン、ご家族様や本人様からの聞き取りを通じて、希望等の把握に努めています。可能な限り、意向に添えるよう工夫しています。	日常の関わりの中で、会話や表情から思いや意向をくみ取っている。利用者にはやりたいことをやってもらい、その時の様子等から新たな一面を知ることもある。	把握した思いや意向を記録し、思いの実現に向けて介護計画に反映していく仕組みづくりの検討に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時の情報、ケアプラン、ご家族様や本人様からの聞き取りを通じて、好きなことや生活歴、馴染みの暮らし方等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の基本的な情報を把握したうえで、職員各自が、利用者様一人ひとりに寄り添い、日々の暮らしの様子を伺って、現状の把握を行い、その情報を共有することで、より寄り添った支援につなげています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状況をケアマネ自身で把握し、更に介護職員やご家族様の意見をきいて、現状にあった介護計画を作成しています。	毎月1回は家族に来てもらい、利用者とのコミュニケーションをとりながら意向も聞いている。職員が関わりながら、利用者の生活が楽しくなるような内容を、介護計画に組み込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は電子カルテへの個別入力で行っています。したがって一つの画面を見ることで、利用者様の情報を職員間で共有できており、介護計画の見直し等に役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズが既存のサービスで対応できない場合は、利用者様との話し合いを通じて、可能な限り希望に添えることができるよう、工夫をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や地域の方々に参加していただく行事の開催を通じて、地域との交流を図っていましたが、今年度はコロナ禍で開催できていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の母体がクリニックで協力医療機関となっておりますが、利用者様が納得して医療をうけられるように、希望を聞いて対応しています。他医療機関への受診支援も行っています。	母体クリニックがかかりつけ医となっている方が多いが、利用者の希望に沿うことも可能である。外来受診の際の原則は家族対応となるため、口頭で情報共有している。歯科と薬局との連携もとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	基本は電子カルテでの情報共有ですが、タイムリーな情報、特に周知すべき情報などは、連絡票を用いて、互いに情報交換し、適切な介護医療につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供を迅速かつ正確に行うことで、適切な医療を受けられるよう努めています。また利用者様に安心していただけるよう、面会にも行っています。病院とも普段からの関係作りにも努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時から重度化した場合や終末期の意向を伺っており、さらに実際に重度化した時も、本人、ご家族様との話し合いを設け、意向の確認を行うようにしています。終末期に関しても同様で、ご家族様の宿泊も可能です。	利用者・家族の要望に沿い、できる範囲で終末期・看取りを支援している。入居時の意向確認、その後は年1回の意向確認を行っている。状態に変化があった時には、その都度話し合い、支援方針を決めている。看護資格のある職員配置もあり、重度化した際にも利用者が安心して過ごせる体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、利用者様の急変、事故に備えています。委員会活動(勉強会)でも取り上げ、全職員が、異変に適切に対応できるよう、心掛けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4～5回の消防訓練を実施しています。水や食料の備蓄も行っています。	定期的な訓練とあわせて、担架での搬送訓練や、水害を想定した避難訓練も実施している。災害備蓄も準備し、高い意識で有事に備えている。備蓄している飲食料の賞味期限の管理は適切に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	幼児言葉等による声かけはせず、利用者様が不快にならないような丁寧な声かけをし、個性に合わせた対応をしています。外国人スタッフについては、随時説明や指導を行い、不快にさせないように努めています。	トイレや居室のドアを開けっぱなしにしないなど、細かなことにも配慮するように努めている。外国籍の職員もいるため、接遇の研修等を行いながら、日本での生活を知ってもらふ機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の意向を傾聴や会話の中から聞き出し、希望に沿った対応をし、自己決定を促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課等はある程度決まっていますが、その中でも、利用者様一人ひとりのペースを大切にして、納得していただきながら、過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、不快にならないような声かけを行い直させていただいています。おしゃれについては、時候等を勘案しながら、ご本人の意向に沿って提案したりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立が決まっているので、味付け等で可能な範囲で利用者様の好みにこたえられるよう努めています。準備や後片付けが可能な利用者様にはお手伝いをお願いして、存在感、やりがいを実感していただけるよう工夫しています。	業者から献立に沿った食材が届き、それを職員が調理している。利用者は、茶わん拭きなどできることを手伝っている。正月にはおせち、開所記念日には特別食等の行事食もあり、日常の食事とは違う楽しみを味わってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事の摂取量は、24時間分を記録し利用者様ごとに把握しています。栄養バランスについては、食材委託業者に任せて適切な摂取ができるようにしてあります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各ユニットに洗面台があり、ここで入歯の管理等を含めた口腔ケアを行っています。残渣や磨き剤の残りの確認を行い、口臭の発生に気をつけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレ排泄を目指していますが、利用者様それぞれに対応した排泄支援を行っています。尿量に応じたパットを利用していただき、コストの軽減も配慮しています。	自分でトイレに行ける方は安全面に配慮した見守りを行っている。声掛け誘導が必要な方には、それぞれの排泄パターンに合わせて対応している。羞恥心にも配慮し、トイレでの排泄が継続できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便有無、水分摂取量のチェックにより、利用者様の排便状態を把握し、水分摂取量や散歩等の運動量を増やしたり、下剤の処方をしていただくなどして解消に努めています。トイレにて適切な腹部マッサージ等も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の配置人数の関係もあり、利用者様が入りたいときに入れるという状況ではありません。入りたくないという方には、時間や日程をずらして入浴していただきます。	週2回の入浴を基本としており、のんびりとくつろげる時間になるように努めている。拒否のある人は、時間や日にちを変更するなどして、臨機応変に対応し、無理強いをせず、入りたくない気持ちを増進させないように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	遅くまでテレビを見たい方や、一旦自室へ入られたあと、またホールに出てくる方もいます。特に問題なければ、ご本人様の好きなようにしていただいています。あまり遅くなるようなときは、声かけしてお休みを促します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職員全員が薬について概ね理解しており、服薬に際しては必ずダブルチェックを行い、間違いや忘れ等を防止しています。管理が重要な薬については看護師より全介護職員に周知されます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれの生活歴を把握して、楽しみや存在感を抱いて生活できるよう、レク等にも工夫をしています。気分転換に季節行事に参加していただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、外に散歩に出かけたり、机と椅子を出してテラスカフェ風に外での雰囲気を楽しんでいただいています。花壇の手入れ等を楽しむ方もいます。コロナ禍なので、遠方への行楽行事は控えています。代わりに秋祭りを開催し、ご家族様とともに楽しんでいただきました。	企画外出は自粛しているが、近隣の散歩は継続している。外気に触れる機会が減らないように、駐車場を活用して体操やお茶会をしたり、花壇の草取りをして日光に当たるようにし、利用者の気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の理解、ご家族様の要望により、本人様にはお金をもたせない方がほとんどです。必要時にはあらかじめご家族様に連絡し、用意していただくこともあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様自らが電話をかけることは、ほとんどありませんが、かかってきた電話には家族の了承をえている場合、対応してもらいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃、床の消毒、整理整頓を行い、利用者様が不快にならないよう整えています。四季に合わせた飾り付けを行ったりして、心地よく過ごせるように工夫をしています。	リビングは利用者が使いやすい十分な広さがある。その一角には畳の部屋があり、懐かしさも感じられる造りとなっている。外出することが難しいこともあり、共有空間で季節の移り変わりがわかるような飾り付けをするなどの工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士が、話し合える席の配置にしたり、間隔をあけた席の配置により、一人の時間を過ごせるように工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込むことも可能で、希望があれば持ち込んだ家具を使用していただいています。小物や思い出の写真等を持ち込む方もいます。施設の都合を強いることがないよう、配慮しています。	家族写真や作品などの思い出のあるものを飾ったり、使い慣れた家具を持ち込んだり、それぞれが落ち着けるように工夫している。できる人は、居室の掃き掃除や掃除機かけなどを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーは当然ですが、廊下やトイレには手摺を設置してあります。各居室は花(造花)で示したりして自分の居室が分かるよう工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395700111		
法人名	医療法人あやめ会		
事業所名	グループホーム かえで		
所在地	愛知県知多郡東浦町大字石浜字笹原28番地1		
自己評価作成日	令和 3年 1月 5日	評価結果市町村受理日	令和 3年 4月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2395700111-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 3年 1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型施設として、利用者様が住み慣れた町で生きがいを持ち楽しく過ごしていけるように。またご家族様が安心して預けることができる施設を目指しています。今年度はコロナ禍により、地域イベントへの参加、地域との交流の機会を設けることができませんでした。それでも感染対策に配慮し、ご家族様も参加された「秋まつり」の開催、利用者様中心のバーベキューパーティーを開催して楽しんでいただきました。
また、法人母体のクリニックが徒歩圏内にあり、素早い医療提供が可能で、隔週の定期往診、看護師の配置等医療面でも安心してしていただける施設となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員ボードに掲示し、毎日職員の目につくよう配慮。会議や委員会等の開催に際し、必ず一度は意識するように心がけ、理念の浸透を図っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度、地域交流祭を開催し、地域の方々と交流の場を設けた。今年度は、コロナ禍を考慮し、中止とした。代わりとして、利用者様ご家族様も招待した秋まつりを感染対策を施したうえ、開催しました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所紹介、認知症勉強会等を地域住民を対象に計画したが、コロナ禍を考慮し、中止しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加されている各代表の意見を聞き、運営やサービス提供に生かしていますが、新型コロナウイルス感染症対策のため、後半は意見照会となりました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特別な問題が発生しないかぎり、連絡は取り合っておりません。 所属する法人としては、様々なことで連絡を取っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設け、定期的に状況の確認、把握。全職員への周知、徹底を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会活動の中で虐待防止をテーマにあげ、学ぶ機会を持つことはもとより、施設内で虐待が起きないように、職員各々で注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでいるが、職員への周知や学ぶ機会の確保は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容について、理解・納得が得られないことがないように、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やそのご家族様からの意見、要望は、いつでも聞かせていただく体制となっており、いただいた意見は、全体会議等で検討し、必要と判断されれば、運営に反映しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	QC活動を行い、提案された意見を担当者会議等で検討し、改善につながる意見、提案は実践し運営に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務表の事前チェック、委員会議事録、実績状況の確認等を通じて、職員のやる気や勤務状況が把握できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	担当者により、最新の社外研修情報を毎月掲示して、職員の受講を促している。 法人内の研修は、すすんでいません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時間的な制約もあり、他事業者との交流の機会は設けられていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様、担当ケアマネジャーから事前に情報を得て、またご本人様のお話をしっかり聞いて、安心感をもって入居いただけるよう配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階で、十分な説明を行い、その際に家族様等からの疑問、不安、要望を聞いて、可能なことはその場で対応するなど、初期の段階から関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様との面談を通じて、またこれまで行われてきたケアプランより必要な支援を考え、本施設でなにごできるかを考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることは、できるだけ本人に行っていたき、出来ないことに関して支援をし、共に生活していることが実感できる環境作りに心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様も参加できる施設行事の開催、理髪希望や通院等の連絡を通じて、いわゆる預けっぱなしの関係ではなく、共に支えていく環境づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	契約時にこれまでの生活歴を聞き取り、入居後もこれまでと変わらない生活習慣が可能な限り継続できるよう、ご家族様等に協力を依頼している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護計画により、利用者様一人ひとりの状況を把握したうえで、それぞれの個性を大切にしながら、皆さまが孤立せず、仲良く関わり合えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特別な要件がある場合を除いて、事業所からの連絡はしていませんが、求められることがあった場合は、安心、納得していただけるよう支援を行います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時の情報、ケアプラン、ご家族様や本人様からの聞き取りを通じて、希望等の把握に努めています。可能な限り、意向に添えるよう工夫しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時の情報、ケアプラン、ご家族様や本人様からの聞き取りを通じて、好きなことや生活歴、馴染みの暮らし方等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の基本的な情報を把握したうえで、職員各自が、利用者様一人ひとりに寄り添い、日々の暮らしの様子を伺って、現状の把握を行い、その情報を共有することで、より寄り添った支援につなげています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状況をケアマネ自身で把握し、更に介護職員やご家族様の意見をきいて、現状にあった介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は電子カルテへの個別入力で行っています。したがって一つの画面を見ることで、利用者様の情報を職員間で共有できており、介護計画の見直し等に役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズが既存のサービスで対応できない場合は、利用者様との話し合いを通じて、可能な限り希望に添えることができるよう、工夫をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や地域の方々に参加していただく行事の開催を通じて、地域との交流を図っていましたが、今年度はコロナ禍で開催できていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の母体がクリニックで協力医療機関となっておりますが、利用者様が納得して医療をうけられるように、希望を聞いて対応しています。他医療機関への受診支援も行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	基本は電子カルテでの情報共有ですが、タイムリーな情報、特に周知すべき情報などは、連絡票を用いて、互いに情報交換し、適切な介護医療につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供を迅速かつ正確に行うことで、適切な医療を受けられるよう努めています。また利用者様に安心していただけるよう、面会にも行っています。病院とも普段からの関係作りにも努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時から重度化した場合や終末期の意向を伺っており、さらに実際に重度化した時も、本人、ご家族様との話し合いを設け、意向の確認を行うようにしています。終末期に関しても同様で、ご家族様の宿泊も可能です。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、利用者様の急変、事故に備えています。委員会活動(勉強会)でも取り上げ、全職員が、異変に適切に対応できるよう、心掛けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4～5回の消防訓練を実施しています。水や食料の備蓄も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	幼児言葉等による声かけはせず、利用者様が不快にならないような丁寧な声かけをし、個性に合わせた対応をしています。外国人スタッフについては、随時説明や指導を行い、不快にさせないように努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の意向を傾聴や会話の中から聞き出し、希望に沿った対応をし、自己決定を促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課等はある程度決まっていますが、その中でも、利用者様一人ひとりのペースを大切にして、納得していただきながら、過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、不快にならないような声かけを行い直させていただいています。おしゃれについては、時候等を勘案しながら、ご本人の意向に沿って提案したりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立が決まっているので、味付け等で可能な範囲で利用者様の好みにこたえられるよう努めています。準備や後片付けが可能な利用者様にはお手伝いをお願いして、存在感、やりがいを実感していただけるよう工夫しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事の摂取量は、24時間分を記録し利用者様ごとに把握しています。栄養バランスについては、食材委託業者に任せて適切な摂取ができるようにしてあります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各ユニットに洗面台があり、ここで入歯の管理等を含めた口腔ケアを行っています。残渣や磨き剤の残りの確認を行い、口臭の発生に気をつけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレ排泄を目指していますが、利用者様それぞれに対応した排泄支援を行っています。尿量に応じたパットを利用いただき、コストの軽減も配慮しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便有無、水分摂取量のチェックにより、利用者様の排便状態を把握し、水分摂取量や散歩等の運動量を増やしたり、下剤の処方をお願いするなどして解消に努めています。トイレにて適切な腹部マッサージ等も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の配置人数の関係もあり、利用者様が入りたいときに入れるという状況ではありません。入りたくないという方には、時間や日程をずらして入浴していただきます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	遅くまでテレビを見ていたい方や、一旦自室へ入られたあと、またホールに出てくる方もいます。特に問題なければ、ご本人様の好きなようにしていただいています。あまり遅くなるようなときは、声かけしてお休みを促します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職員全員が薬について概ね理解しており、服薬に際しては必ずダブルチェックを行い、間違いや忘れ等を防止しています。管理が重要な薬については看護師より全介護職員に周知されます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれの生活歴を把握して、楽しみや存在感を抱いて生活できるよう、レク等にも工夫をしています。気分転換に季節行事に参加していただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、外に散歩に出かけたり、机と椅子を出してテラスカフェ風に外での雰囲気を楽しんでいただいています。花壇の手入れ等を楽しんでもいます。コロナ禍なので、遠方への行楽行事は控えています。代わりに秋祭りを開催し、ご家族様とともに楽しんでいただきました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の理解、ご家族様の要望により、本人様にはお金をもたせない方がほとんどです。必要時にはあらかじめご家族様に連絡し、用意していただくこともあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様自らが電話をかけることは、ほとんどありませんが、かかってきた電話には家族の了承をえている場合、対応してもらいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃、床の消毒、整理整頓を行い、利用者様が不快にならないよう整えています。四季に合わせて飾りつけを行ったりして、心地よく過ごせるように工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士が、話し合える席の配置にしたり、ソファーを利用して、一人の時間を過ごせるように工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込むことも可能で、希望があれば持ち込んだ家具を使用いただいています。小物や思い出の写真等を持ち込む方もいます。施設の都合を強いることがないよう、配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーは当然ですが、廊下やトイレには手摺を設置してあります。各居室は花(造花)で示したりして自分の居室が分かるよう工夫しています。		